

令和元年度第1回河川ガイドツアー〔小野川編〕を実施しました！

- [日 時] 令和元年6月23日(日曜日) 9時から15時40分まで
[場 所] 集合・解散：霞ヶ浦環境科学センター 小野川上流：つくば市小野崎地内
小野川中流：新岡見橋(牛久市岡見) 昼食・休憩：牛久自然観察の森(牛久市結束)
小野川下流：古渡橋(稲敷市古渡)
[参加者] 32人(大人：19人、子ども：13人)
[講 師] 霞ヶ浦環境科学センター 細田係長、中島主査

身近な河川を上流・中流・下流と巡り、水質や生き物の調査等の体験学習と、自然科学、歴史、地理等の話を通して、河川を様々な側面から総合的に捉え、自然の素晴らしさや恵みを感じ、環境に配慮した行動を考えるための河川ガイドツアーを、霞ヶ浦の流入河川の一つである「小野川」で実施しました。

霞ヶ浦環境科学センターに集合して、バスで小野川上流(つくば市小野崎)に向かいました。

バスの中では講師から、小野川がつくば市小野崎から牛久市、龍ヶ崎市を経て稲敷市で霞ヶ浦に流入していること、つくば市内では稲荷川に繋がっていて小野川上流の一部は牛久沼に流れていること等の地理の話や、江戸時代には小野川流域に薪炭林(まき)としてのアカマツ林が広がっていて、まきや農作物が小野川から霞ヶ浦・利根川・江戸川を通して江戸まで船で運ばれていたという歴史の話等を聞きました。



上流のつくば市小野崎では、用水路状の源流からの流れに沿って歩きながら観察し、身近な街の中に源流が流れていることや、源流は川幅がとても狭いこと等を確認しました。



中流の新岡見橋(牛久市岡見)では、橋の上で上流と中流で採水した川の水の水質検査体験として、CODのパックテストと透視度計を使った透視度測定を行いました。



また、橋の下では中流の川幅や流れの観察、ボートに乗っての生き物採集や、胴付き長靴を履いて水の中に入って生き物や貝化石を調べる体験をしました。

エビやハゼ類といった生き物が生息していること、貝化石があることから昔は海であったことを学びました。



昼食・休憩時間は、牛久自然観察の森を訪れ、身近な生き物の展示や豊かな雑木林等を観察しました。



最後に下流の古渡橋（稲敷市古渡）を訪れ、下流の川幅や流れの観察、水質検査、透視度測定等の体験と、川岸の植物、漁具、地域の歴史であるホイホイ地蔵や十三塚等の話を聞きました。

上流ではとても狭かった川幅が、下流の霞ヶ浦に流入する地点ではとても広がっていて、一日で上流から下流まで巡ったことで水の繋がりを感ずることができました。



参加者の皆様からは、「自分が住んでいる近くに大きな川の源流がある事におどろきました」、「初めて水質調査をして、日頃から自分のできる事で協力することの大切さを実感しました」、「1つの川の流域を見るのは新鮮でした」「とてもたのしかった。川をきれいにしていきたいです。」といった感想をいただきました。

また、「もっと生き物を調べたかった」、「化石があまり見つからず残念だった」という御意見もいただきました。

皆様からの御意見を参考に、これからも楽しく体験しながら学ぶことができるイベントを企画しますので、ぜひ御参加ください。

御参加いただいた皆様、御協力いただいた牛久自然観察の森の皆様、ありがとうございました。